〔論　文〕

\*1 著者所属学科名，\*2共著者所属学科名（学外者の場合は所属機関名）

\*3 共著学生所属学科名，

　平成00年00月00日受理

投稿論文の作成について

（久留米工業大学研究報告テンプレートファイル利用について）

久留米 太郎\*1・工大 さくら\*2・学術 情二\*3

Making Research Paper

(About the Use of the Bulletin of Kurume Institute of Technology Template File)

Taroh KURUME\*1 , Sakura KOUDAI\*2 and Jouji GAKUJUTSU

Abstract

The length of the abstract should be 150-250 words. In the beginning of the abstract, the subject of the paper should be stated clearly, together with its scope and objectives. Then, the methods, equipment, results and conclusions in the paper should be stated concisely in a sufficiently logical manner. The discussion on the results may also be stated to emphasize their importance appropriately. -------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

---------------------------------------------------------------------------------

Key Words:Keyword1, Keyword2, Keyword3, Keyword4,…(Show five to ten keywords.)

1.　緒　　　言

このテンプレートファイルは，久留米工業大学研究報告執筆要領に則り原稿体裁を整えて投稿することができるように, スタイルファイルとしてフォントサイズなどの書式を設定し登録している．1行の文字数，1ページの行数など定められた形式で作成することができる．

本文の文字数は，1ページ当たり，53文字×46行×1段組で2438字とする．また，文章の区切りには全角の読点「，」（カンマ）と句点「．」（ピリオド）を用いる．カッコも全角入力する．

本文中の文字の書式は，明朝体・Serif系（Century，Times New Romanなど）を利用し，章節項については，ゴシック体を使用する．文字の大きさ及びフォントの詳細を確認する場合は，久留米工業大学研究報告投稿の手引き（以下「投稿の手引き」という）2．論文の書き方を参照する．

2.　このテンプレートファイルの使い方

このテンプレートの表題（副題），著者名，本文などはあらかじめ「投稿の手引き」で指定したフォントサイズなどの書式が設定されている．この書式を崩さずに入力すれば，文字数，行数など定められた体裁で論文を作成することができる．しかし，絶対的な出来上がりのレベルを保証するものではないので，体裁が望むレベルに達しない場合には，使用の環境に合わせ，投稿者各自において微調整を行うなど，研究報告掲載の体裁に最も近い設定を行う必要がある．

なお，書式を崩してしまった場合は，段落内にカーソルを置き，［書式設定］ツールバーの「スタイル」ボックスで，指定したいスタイルをクリックすると体裁を容易にえることができる．

3.　原稿執筆の手引き

3・1　原稿の規定ページ数について

研究報告に掲載される原稿1編当たりのページ数は，原則として図(写真)･表を含めて刷上り和文の場合は10ページ，英文の場合は14ページ以内とする．査読の結果により，編修委員会が特に必要と認めた原稿については，超過を認めることがある。

3・2　原稿の作成に際して

原稿の冒頭には，和文の表題・副題，著者名，英文の表題・副題，ローマ字著者名を入れる．

3・3　表題及び副題の付け方

原稿の表題は内容を明確に表現するもので，しかも簡潔なものが望まれる．また，必要に応じて副題を付けてもよいが，第1報，第2報という表現は極力避けるようにする．

3・4　英文要旨の書き方

長さは150～250語程度で，途中で改行をしないで，本文と切り離してそれだけを読んでも，論文の内容が具体的に分かるように研究対象，研究方法・装置，結果について書く．また，本文中の図・表・文献は，引用しない．式を書く必要がある場合は，式の番号を引用せずに，式をそのまま書く．

3・5　キーワードの付け方

キーワードは，論文の内容を代表する重要な用語で，選定に際しては，例えば日本機械学会や著者の所属学会における基準キーワード集の選定要領に従い選ぶ．

3・6　脚注の書き方

原稿用紙1ページ下に本文との間に線を入れ，原稿受付年月日（投稿時は空白），著者の所属機関名を書く．著者の所属機関名については、原稿を投稿する時点における所属機関名・部署名を記載する．

3・7　見出し（章，節，項）の付け方及び書き方

本文は適当に区分して，見出しを付ける．体裁としては，章は2行分をとって，行の中ほどに書く．また，節・項は行の左端より1文字あけて書き，改行して本文を記載する．ただし節の後に項がくるときは改行する．書体はゴシック体とする．

3・8　量記号・単位記号の書き方

量記号はイタリック体，単位記号はローマン体とする．無次元数はイタリック体で書く．

3・9　用いる単位について

単位は，原則としてSI単位を使用する．数学記号・単位記号及び量記号は，半角英数字を使用する．なお，SI単位については，例えば日本機械学会発行の「機械工学SIマニュアル」及び「JISZ8203 国際単位系（SI）及びその使い方」を参照する．

3・10　用いる記号

数学記号は，JISZ8201に従う．また，量を表す文字記号（量記号）は，JISZ8202に従う．年度の表し方については，本年または昨年などとせず，必ず2007年のように西暦ではっきり記述する．そのほか，文中における数字の使い分けについての詳細は，「投稿の手引き」を参照する．

4.　図及び写真・表の作成に関して

（1）本文中では，図1，表1のように日本語で書く．写真は，図として扱う．

（2）番号・説明などは，図についてはその下に，表についてはその上に書く．

（3）本文と，図・表の間は1行以上の空白を空けて，見やすくする．

（4）図中・表中の説明及び題目はすべて英語で書く（最初の文字は大文字とする）．書体としては，Serif系を利用し，9ポイントの大きさで記載する．

（5）図及び表の横に空白ができても，その空白部には本文を記入してはならない．

（6）図及び表は，余白部分にはみ出してはならない．

図

Fig.1 Double wishbone type front suspension

5.　数式の書き方

式におけるカッコの入れ子は式（1）のように,原則としての順で用いる．

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（1）

式番号は，式と同じ行に右寄せして（ ）の中に書く．また，本文で式を引用するときは，式（1）のように書く．式を書くときは，2文字分空白を空ける．また，必要行数分を必ず使うようにして書く．3行必要とする式を2行につめて書いたり，2行に分かれる式を1行に収めたりしない．なお，本文と式，式相互間は1行以上の空白を空けて，見やすくする．

また，原則として数式エディタのポイント数は本文に準じるものとするが，添え字等が小さく読みにくくなるときは適宜拡大する．

（2）

（3）

（4）

6.　引用文献の書き方

本文中の引用箇所には，右肩に小括弧をつけて，通し番号を付ける．例えば，新宿・渋谷(1)(2)のようにする．引用文献は，本文末尾に番号順にまとめて書く．また，日本語の文献を引用する場合は日本語表記とし，英語の文献を引用する場合は英語表記とする．(参考文献は、MS P明朝8.6P行間は詰め)

7.　結　　　語

本テンプレートファイルのスタイルを利用すると，各々の項目の書式が自動的に利用できるので便利である．

なお、テンプレートファイルの作成に際しては，日本機械学会論文集投稿用テンプレートファイルを参考としたことを付記しておく．

文　　　献

1. 久留米太郎，工大さくら，“投稿論文の作成について”，久留米工業大学研究報告，No. 36 (2013)，pp. 13-32.
2. Katzourakis, D.I., Abbink, D.A., Happee,R., and Holweg, E., “Race-Car Instrumentation for Driving Behavior Studies”, *IEEE Transactions on Instrumentation and Measurement* , Vol. 61, No. 2 (2012), pp. 462-474.
3. 原田正範，原田宏，“懸架系と操舵系の統合制御による操安性の解析”，日本機械学会論文集C編，Vol. 65, No. 638 (1999), pp. 253-258.
4. 藤岡健彦，鎌田実，自動車プロジェクト開発工学(2001)，pp. 146-155，技報堂出版.